

地域コミュニティにおける持続可能な伝統祭事のあり方に関する研究

～琴平町象郷地区を対象として

1250531 森井 美月

指導教員 土屋 哲

研究背景

少子高齢化により、伝統的な祭事の継続が困難になってきている。そんな中、自治会未加入世帯の人が祭りにできなかつたり、地域外からの受け入れ態勢が整っていなかつたりする現状がある。また、新たなメンバーは一から練習する必要があり、仕事と練習の両立が時間的に難しい。このように、伝統祭事の担い手を確保する上では様々なハードルがある。

研究目的

本研究では、地域の祭事にみんなが一緒に参加できる環境をつくりだし、伝統を継承していくために、地域の現状や課題を把握し、問題の解決について検討することを目的とする。

研究方法

琴平町象郷地区を対象とし、象郷小学校の児童の保護者にアンケート調査を行った。調査で得られたデータを集計・分析することにより、現状を把握した。

分析結果

回答者の多くは伝統行事を大事にし、後世にも残すべきだと考えているものの、演じる側に回るのは出来るだけ避けたいという傾向にあることがわかった。また、40 歳代までの比較的若い保護者の中には、祭りに対してあまり良い印象を持っていない人が見られた。他方、50 歳代の保護者は祭りに対して協力的で良い印象を持っている人が多かった。総じて世代間によって祭りに対する意見のばらつきが明らかになった。

考察・結論

上記の回答傾向の一方で、若者をはじめとする担い手を増やせる可能性も見出された。これからは、演じる側になることに肯定的な若い世代の女性を中心となるようなあり方を考え、伝統を守るために、慣例を壊す必要がある。まずは勧誘活動を行うことや練習時間の見直しなど、できることから行動に移し、また、「町内の小中学校の授業の一環として地元の祭りに参加する機会をもうける」という意見に賛同する保護者も多かったため、学校と連携体制を取りながら、みんなが祭りに触れる場をつくり、祭りの楽しさを感じてもらいたい。地域の祭りが、地域住民のふれあいの場になり、次の世代に継承されていくように、祭事への参

加の壁を無くすための方策を考案・実行していくことが重要である。